



エスコープ大阪機関紙

第225号

10.25

C o n t e n t s

表紙

・これからの食と農をリードする消費者とは

P2

・活動エリア内に作る10万人の組合員と生産者の持続可能な関係を目指して!

P3

・活動報告 サステナブルフェス! 2021
・組合員紹介
・関西W.Co連合会と共につくる地域社会

P4

・山村瑞子初代組合員理事長を偲ぶ
・理事会報告 ・Rびん回収率
・おたよりネット・編集後記

第一次 生活クラブ
2030
行動宣言

生活クラブはSDGsの理念に通じ、
かつ留まらない活動を実行していくことを約束します。



これからの食と農を リードする消費者とは

「IPCC」(気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では「温室効果ガス排出削減効果が十分に進まなければ、気温上昇などによる食料生産へ悪影響が拡大し、2050年に穀物価格が最大23%上昇する恐れがあり、食料不足や飢餓のリスクが高まる」との報告があります。また、コロナ禍での食料市場の不安定さも浮き彫りになっています。多摩南生活クラブ生協理事長、生活クラブ生協・東京副理事長を経て、現在「食農共育」として「食(消費)と農(生産)に関わるすべての人びとが共に学びあい、育みあうことで食の問題を解決していきたい」と活動されている「NPO法人 コミュニティスクール・まちデザイン」(東京都世田谷区。以下、CSまちデザイン)の近藤恵津子さんにお話を伺いました。

(聞き手:理事会事務局広報担当 岡 公美)

『新たな観』の形成

岡 気候危機が深刻になっている現在、お米をはじめとする食料や農業についてどのよう

に考えておられますか。

近藤 まず前提として確認したいのは、これまで私たちが問題視してきた気候変動については、いよいよ気候危機の段階にきており、みんなが本気で脱炭素に取り組まなければならないということです。その際、思い切ったこれまでの価値観を転換しないと、脱炭素社会はつくれないのではと考えています。

田中優子さんと辻信一さんの共著『降りる思想』に、「震災復興は、震災前の状況に戻し、さらに発展していくことが想定されているが、そうではなく、これまでの考え方から降りて新たな価値観をつくることで豊かな社会にしていけることが大切」という考え方が提示されています。また、私たちがこれまで取り組んできた「食農共育」について、ある小学校の先生が「近藤さんがされていることは『新たな観』の形成だね」と仰いました。つまり脱炭素社会は、経済成長を前提にするのではなく、みんなが新しい価値観をもって「新たな社会」を構築しようとするることによって実現するのではないのでしょうか。

この考え方を共有した上で農業について考えたとき、危機対策も急務だと考えます。少し前に「国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構」の方に講演していただいた

た時に、「気候変動に対応する品種の利用や栽培技術の開発、作物転換などに取り組むことが必要だ」と仰っていました。「コスト面など適応策の普及には課題が多いが、長期の気象予報データを活用したり、新品種を開発したりすることも重要」とのことです。

生活クラブ(エスコープ大阪)では基本的に立ち返り、生産者とともに気候危機を乗り越えていきたいですね。地球の裏側からせつせと食べものを運んでくるのではなく、日本の中で工夫してつくることができ、品種も多様であり、様々な栽培技術を培ってきたお米を大事に食べていこうと伝えたいです。

岡 生産者まかせでなく生協組織もこれまで同様に積極的に関わっていくことも必要ですね。

「半径3mの安全性」でいいのか

岡 「新たな観」を形成していく上で、消費者側(考え方や消費行動など)に求められることは何でしょうか。

近藤 消費者の「食料を確保したい」「できるだけ安く」「安全なもの」という考え方だけではいいのかと考えることがよくあります。出版社コモンズ代表の故大江正章さんは、生前病床で書かれた『有機農業の力』という本の中で、安全志向は強いが生産にまで思いが至らない消費者の考え方を「半径3mの安全性」と表現されています。また食生活研究家の魚柄仁之助さんも講演の中で、「超安全な加工食品がほしいと生協組合員

が、期待される消費者なのだと仰っています。

そういう意味では、生活クラブの組合員は未来の食と農をリードしていく消費者だと言えますね。

岡 実を知り主体的に考える消費者、仲間を増やしていきたいと思いますが、実践されていることなどありますか。

近藤 食と農の現状について深く知ると、作物を生産する人や作物がつかれる環境がいかに大事であるかに気づきます。でも、「観」と「行動」を変える第一歩は、知識は一旦おいておいて「楽しく体験すること」ではないでしょうか。「楽しい」「おいしい」「でもちょっと大変だったね」という経験を通して、気づくことがたくさんあると思います。

CSまちデザインでも親子で体験する企画や料理講座、学校への出前授業などに取り組んでいます。講座の中でコンビニおにぎりの一粒一粒を紙の上に並べてもらうことがあります。すると、半分くらいに欠けてしまった米粒が結構あることに気づきます。農家の方に「メーカーが、丹精込めてつくった一等米ではなく安い米を求めて買いくる」と聞いたことがあります。日本では家庭での米の消費量は減っていますが、中食・外食をあわせると(食べる量は減ったものの)まだ一日2食弱は米を食べています。家で一等米をおいしく炊いて食べることから、メーカーが加工したものを食べる食べ方に変わり、それは価格の安い米の消費が増えていくことを意味します。どんな形でも米を食べることで日本の農業を守りたいと思っていました。そうは言えないようです。

また講座では、コンビニのおにぎりの添加物を見てさらに考えることができます。食べものはシンプルに、おにぎりは家でつくりますしようと、私はこれからは呼びかけていきたいです。

岡 エスコープ大阪の組合員がリーダーとなる仕組みづくりが必要だと改めて感じました。

©Hiromichi NOZAWA

特定非営利活動法人
コミュニティスクール・まちデザイン
理事長

近藤 恵津子さん

は求めがちだが、それでいいのか」と投げかけられました。「自分の食の安全性だけを求めているのでは、持続可能な食と農は実現できない」というお二人の考えに共感します。また、大江さんは「農作物の本当の価値が分かる」「農業についての理解や歩み寄りができる」「自分で耕してみる」という農的な考え方を持つて行動できる人こそ

活動エリア内に作る 10万人の組合員と生産者の 持続可能な関係を目指して！

まだ間に合う？

国内生産者の拡大

気候危機とコロナ禍にあって、私たちのいのちの源である食料を取り巻く現状はより厳しいものになっています。気候変動の影響は、農林水産業では「高温による生育障害や品質低下」が進み、収量にも影響します。例えばお米では、すでに全国的に白未熟粒（デンプンの蓄積が不十分なため、白く濁って見える米粒）の発生など高温による品質低下が見られます。この場合、一等米比率が低下し、単においしいお米が食べられなくなるといっただけでなく、農家の経営にも影響を及ぼします。

新型コロナウイルスに関する考察として科学者や専門家が見解を示していますが、「国立環境研究所」の五箇公一博士は、「今後も開発により低緯度地域の生物多様性の破壊が進行すれば、さらに新興感染症の発生頻度が高まる」と指摘しています。生産現場で感染が拡大すると生産が止まってしまいます。物流や私たち生協の現場もしかりです。今後モリスクの高い新しい感染症が頻発すると、地域や国内だけで

なく世界レベルで食料調達に影響を及ぼします。

需要と供給で価格が決まり、特に輸入に頼る食品の値上げが頻繁に起っていることや、気候危機とコロナ禍で国内生産者の減少に拍車がかかっていることから、食べる側と生産する側双方に価値観の転換が無ければ、私たちの食の先行きは不安だらけです。国も生活クラブですすめているFEC自給ネットワークと同じように、経済社会のリデザインに向けた脱炭素社会・循環経済・分散型社会を具現化する「地域循環共生圏」という政策をすすめています。生活クラブでは約50年前から山形県遊佐町の生産者のお米の取り組みを開始し、



「主産地形成」をすすめる「FEC自給ネットワーク」の実現をすすめています。関西6生協では2013年から滋賀県電王町で取り組みを始めています。

ハードルは高いけど、大きな夢があります

私たちは生産者と共にFEC自給ネットワークづくりをすすめるなかで、生産者と消費者が対等に話し合い、ものの価値で取引価格を判断して持続可能な生産と消費をすすめています。また、産地としての持続可能性への取り組みとして、地域循環型農業やエネルギーなど環境取り組み、福祉や仕事（雇用）の取り組みをすすめるFEC自給ネットワークを具現化していきたいと考えています。

まずは、食の取り組みで滋賀県の「JAグリーン近江」とお米を主軸にしていろいろな作物の消費をすすめたいと考えています。もち米や、大豆（豆伍心）の豆腐原料）はすすんでいますが、さらに転作作物の飼料用米や

「丸菱製麺」

滋賀県東近江市で1932年に創業。麺類や皮類製造の生産卸をしており、消費材では『ゆでうどん』『焼きそば用蒸しめん』『生そば』などを生産しています。地元産原料で製造をすすめていきたいとの考えで、「ゆでうどん」の小麦は滋賀県産です。関西6生協ですすめる「主産地形成」にも関心が高い生産者です。



野菜・なたね・小麦・そばなどの加工食品原料の栽培ができないかなど、複合的な取り組みを模索しています。2021年度は「主産地づくりキャンペーン」として電王町に近い東近江市の生産者であり滋賀県産原料を使用したいと考えている「丸菱製麺」の消費材の利用を推進し、利用した組合員に主産地形成への参加（「電おうみ米」の定期登録）をすすめています。

『電おうみ米』

2021年産米が収穫できました！

会員21名（15名と3法人）18経営体の「電王町稲作経営者研究会」が



『電おうみ米』5kg

●価格：登録**2,191**円(税込)

自由注文**2,303**円(税込)

●防除：病害虫防除なしで除草剤(3成分以下)を1回のみ。

●生産者：電王町稲作経営者研究会

栽培する『電おうみ米』が今年も収穫を終え、新米をお届けする時期になりました。2021年産米は関西6生協で5千850俵、うちエスコープ大阪で1千240俵を確保し、消費する約束をしています。

今年はお盆前後からの長雨の影響で、「みずかがみ」「キヌヒカリ」の早生品種は登熟が進まず未熟粒（規格より小さいお米）が多くなり、収量はやや少ない傾向にあります。そのため長雨の影響で8月の気温が高くなりすぎず、乳白粒の発生が少ない傾向です。中晩成品種の「秋の詩」は、出穂期・開花期が長雨に重なった影響で、収量がやや少ないですが品質については良い傾向となりました。

品種は「みずかがみ」「キヌヒカリ」「秋の詩」で、この順番でまず新米が届き、その後もこの順番でみんな食べさせていただきます。早生・中成・晩成という品種特性を組み合わせる農作業の分散を図ることで、気象変動がもたらす収穫減のリスク分散になっています。

理事会
サステイナブル
フェス! 2021
7～8月

組織担当常務理事
糸川 江里子

エスコープ大阪「サステイナブルフェス! 2021」を5つの地域委員会が開催しました!

私たちの目の前には、気候危機、遺伝子組み換え・ゲノム編集食品、国内自給率の低下、格差の問題、海洋汚染など、今を生きる大人が解決しなければならない社会の課題があります。次の世代にサステイナブル(持続可能)な社会を手渡すことが私たち大人の責務です。「サステイナブルフェス! 2021」では、毎日の暮らしにも取り入れられるサステイナブルな暮らしのヒントをみんなで楽しみながら探し、多くの人に伝えて参加する組合員を増やしていくことを目的として、5つの地域委員会が取り組みました。



生活クラブ連合会が2020年度に引き続き開催した「サステイナブルフェス! 2021」にエスコープ大阪の5つの地域委員会が取り組みました。地域委員会では7月に、「サステイナブルフェス! 2021」を多くのの人に発信するためにチラシまきやチラシの地域コミュニティ施設への設置、SNSを使って宣伝、組合員へ直接呼びかけるなどして、各地域2名以上の組合員以外の方の参加をめざしました。8月にはオンラインで、サステイナブルな暮らしのヒントを体感できる企画を実施しました。

「昆虫ムシボット作り」や、「こねこねせっけん」とバスボム作り」を開催した地域では、親子で創作を楽しんだり、絵本や動画を活用してサステイナブルな暮らしのヒントを話し合い、次の世代につなげたい持続可能な社会について意見交換をしました。「ふりふりバター作り」や「べっこう飴作り」を開催した地域では、消費材を話題にして組合員の取り組みや運動が持続可能な社会につながることや、一人ひとりができる暮らしのヒントについて話をしました。

5地域合わせて、組合員以外の参加が1組しかなく、広報活動の課題が残りました。また、今回の企画を開催するにあたり、初めてSNSを使った広報活動を取り入れましたが、フェイスブックやインスタグラムなどについて十分な理解と活用ができませんでした。私たちの取り組みや運動を多くの人に発信できる道具となるかどうかも含めて、地域委員会および理事会で今後も協議していきます。

生活クラブのホームページでは「サステイナブルフェス! 2021」に、様々な活動や取り組みが紹介されています。ぜひご覧になって、サステイナブルな暮らしのヒントを考える機会にしてください。

●堺市街地域委員会
8月9日(月)
昆虫ムシボット作り
堺市街地域理事 川 弘美

持続可能な暮らしのヒントを考えました!

エスコープ大阪はこれまで食べものの安全性や環境問題、たすけあいのしくみづくりなど、サステイナブルな社会づくりに取り組んできました。今回はその共感の輪を広げるために体験型企画を開催し、幼稚園の年長から小学校2年生の子どもまで組合員の4組の親子と1組の員外の親子がオンラインで参加しました。



子どもたちは木製のベースキットに自分たちで準備した葉っぱや枝、家にある端材やプラスチックごみなどを組み合わせて、自分だけの新種の昆虫を作り、画面上で披露して、付けた名前の由来や工夫したことを発表しました。

子ども達の創作中、お母さんたちにはエスコープ大阪組合員のこれまでの取り組みや運動について話し、シンブルライフ研究家の、マキさんの動画を視聴しました。視聴後はそれぞれが生活の中で取り組んでいるサステイナブルなことを話し合いました。

繰り返し使える保存容器を使う、Rびんなどの消費材を利用する、無駄な物は買わない、使い終わった茶殻は庭に撒く、生ゴミは堆肥にするなど、自分たちでできる工夫を話しました。参加者から「家の中には再利用できないで廃棄され、燃やされてしまっただけのプラスチック製品が多いことに気づいた」などの声がありました。

サステイナブルな社会とは資源を使いすぎず、地球を壊すことなく、次の世代にも豊かな環境を持続させる社会のことを指します。今回の企画は楽しく身近なサステイナブルな暮らしのヒントを親子で考える機会になりました。

●泉州地域委員会
8月18日(水)
こねこねせっけんとバスボム作り
泉州地域委員 藤本 裕子

親子で楽しくせっけん作り

7月に組合員の紹介活動につなげることを目的としてチラシまき、地域コミュニティ施設にチラシの設置をするなどして参加を呼びかけました。残念ながら組合員以外の参加はありませんでしたが、組合員親子6組がオンラインで参加しました。

最初にせっけんと合成洗剤の違いについてDVDを鑑賞し、合成洗剤が環境にどのような影響を及ぼしているのかを学びました。参加者からは「DVDを見て衝撃を受けました。今までテレビCMにどれだけ洗剤が売られていたかわかりました。」という感想がありました。

次に、市販の合成洗剤に含まれている蛍光増白剤が普段使っているマスクの糸やハンドタオルにも含まれていることを、ブラックライトを当てて見てもらい、有害化学物質が普段使っているものにも含まれていることを実感しました。有害化学物質が含まれている香りで悩まれている方の話もあり、香害問題も身近に感じました。

子どもたちが楽しみにしていた「こねこねせっけん作り」は、消費材の「洗濯用無添加せっけん(針状)」を使い、各自が思い思いの色や形に仕上げました。親子で楽しみながら作業し、せっけんを使うことがサステイナブルな生活につながることをみんなで共有できました。みんなで共有できた暮らしのヒントを組合員以外の方にも広め、仲間を増やしていきたいと思っています。



関西W.C.O連合会と共につくる地域社会 vol.3



関西ワーカーズ・コレクティブ連合会
代表 中島 紀子さん

今回は、「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」(以下、連合会)の2021年度の活動基
本方針のひとつ「関西のワーカーズ・コレクティブ(以下W・C・O)の中間支援組織としての役割を果たします」についてお話を伺いました。

中間支援組織の役割としては各W・C・Oの運営サポートや新規立ち上げ支援をするともに、加入W・C・Oに対して全国W・C・Oや生活クラブ関西6生協との連携仲介や情報収集などをおこなっています。

例えば、各W・C・Oの事業運営に当たって、専門的な知識や情報が必要な時に、「ワーカーズ・コレクティブネットワーク・ジャパン」(以下、WNJ)を通じて、全国のW・C・Oに繋

いだり、連合会その他のW・C・Oの活動報告の中からヒントを得る機会を作ったりしています。また、昨年度は、WNJの「コロナ緊急支援金」申請の仲介をおこないましたが、今年度

紹介します!!
うちの地域の組合員さんです



一緒に学ぶ仲間をご紹介します!



南楚 節子さん
[堺市街地域]

南楚さんは、原材料が明らかで安心できる食べ物を探していた時に、お友だちにエスコープ大阪を教えてくださいました。2年前に加入されました。お気に入りの消費材は冷蔵供給になった鶏肉です。冷凍だった頃よりジュシーでおいしくなったと思うそうです。

以前は調理企画や生産者交流会

聞き手 川 弘美堺市街地域理事

は連合会としても独自の「W・C・O支援基金」を立ち上げ、迅速な金銭的支援も対応できるようにしていく予定です。

生活クラブ関西6生協との連携については、現在、連合会機関紙を届けたり、イベント案内をすることに留まっていますが、今後はさらにW・C・Oに関する情報提供や、生協が取り組むW・C・Oの立ち上げ支援ができるような仕組みづくりを進めたいと考えています。

その他様々な企画を立て、W・C・Oの学習・交流の機会を提供しています。10月には、昨年12月に成立した「労働者協同組合法」の学習会を開催します。11月には「消費税に関する会計セミナー」の開催を予定しています。

2022年2月には、今年ワーカーズ・コレクティブ誕生40周年を迎える神奈川の地で「ワーカーズ・コレクティブ全国会議」がおこなわれる予定です。関西から多くのワーカーで参加したいと考えています。



第4回
理事会報告 <9月1日>

【7月度決算報告】

- 供給高 2億3,726万円
(前年同月比103%)*配達日数は1日多い
- 組合員数 19,061名(前月比-8名)
- 一人当たりの出資金 86,292円

【8月の放射能検査結果】

8月は連合消費材588検体、関西消費材8検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【協議事項】

- ①次年度方針の立案に向けて(上期活動のまとめ)
- ②11月竜おうみ米登録推進月間取り組み
- ③5月鶏肉利用推進月間取り組みまとめ
- ④ZOOM企画の流れと対応について
- ⑤カネシゲファーム・ルーラルキャンパス土地取得カンパ

【報告承認事項】

- ①2021年度菜食ファーム新規就農者について



エスコープ大阪
Rびん回収率 <8月実績>

2021年度Rびん85%以上の回収を達成しよう！
食べるカタログ・びん本体の♻マークが目印です。

	供給	回収	回収率
8月	10,283本	8,168本	79%
4～8月	62,651本	45,275本	72%

8月は80%まであと一歩でした。回収率UPキャンペーン終了まで約1ヵ月です。たくさん返して応募しましょう！

編集後記

山村さんにお会いしたことはありませんが詩に出会ったのは、「大きく育て福祉の樹vol.2」にも記載されている、設立30周年記念誌に寄稿された詩。大きく共感・感動しました。理事になってからは過去の議案書や資料を調べている時に、また違う詩とたくさん出会いました。元氣と勇気をもらい「うん、私はまちがってない」と自分に言い聞かせてまた作業に戻り、困難な状況でも頑張ることができた理由のひとつです。当時の苦労や喜び、喧々諤々も飾らずありのまま「おもい」が伝わる詩で大好きです。立場役割は変わりましたが、これからもお世話になりそうです。ご冥福をお祈り申し上げます。(O)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪
〒590-0151 堺市南区小代727
TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022
https://s-osaka.seikatsuclub.coop/



故 山村 瑞子さん

1983年、山村さんは理事長をお辞めになられました。その後、源氏物語講座、老人のための朗読ボランティア、「福祉ワーカーズほーぷ」の起ち上げに尽力なされました。
2011年に膝臓がんの手術をなされ、元氣になられると「私は、私のできることで、社会に向けてお手伝いをしたいです」と。その後も自転車で

2018年
*
句集『浜木綿』を
自費出版
今まで綴りお
かれた中から、友
人知人に葉書を書かれるときに一
句二句添えて、私への葉書にもいつ
も一句いたいただきました。お花を
詠まれた句がたくさんあります。
2020年『山村瑞子詩文集』
「子や孫にある日の記念に」……と。
ご家族やお友達のこと、いっぱい心
を込めての詩集・童謡・エッセイで
す。その中から、「一生」をご紹介します。

初代組合員理事長の山村瑞子さんが今年8月にお亡くなりになりました。
エスコープ大阪(当時は泉北生協)設立当初から理事として関わられ、1973年に理事長に就任。私たちの生協の土台を作られました。
当時、共に活動した仲間は今でも年に一回、総代会が終わった6月に集まっておられ、グループの名は、その頃に咲く花にちなんだ「あじさい会」。ご逝去後にメンバーが集まられ、山村さんの詩文集を読み返されたそうです。代表して大西智子さんに追悼のお言葉をいただきました。

当時、日本の生協自体、社会的に認められることがなく、商品の安全性・石けん運動・共同購入などの概念すら無かった時代。一つ一つ、専務理事であられた望月躬三さんが理事会に提案され、割れ鏡のように怒鳴って「なんでこんなに怒鳴られらん」と、けんか理事会でした。山村さんは理事長になられ、COP発祥の地、イギリスへ一人で視察に行かれました。このお二人の並々ならぬ力があってこそ、生協運動とは何かが理解でき、小さな子どもの手を引きながら活動に頑張り、泉北生協の基礎ができたと思いました。

2018年
*
句集『浜木綿』を
自費出版
今まで綴りお
かれた中から、友
人知人に葉書を書かれるときに一
句二句添えて、私への葉書にもいつ
も一句いたいただきました。お花を
詠まれた句がたくさんあります。
2020年『山村瑞子詩文集』
「子や孫にある日の記念に」……と。
ご家族やお友達のこと、いっぱい心
を込めての詩集・童謡・エッセイで
す。その中から、「一生」をご紹介します。



浜木綿と山村瑞子詩文集

初代組合員理事長の山村瑞子さんが今年8月にお亡くなりになりました。
エスコープ大阪(当時は泉北生協)設立当初から理事として関わられ、1973年に理事長に就任。私たちの生協の土台を作られました。
当時、共に活動した仲間は今でも年に一回、総代会が終わった6月に集まっておられ、グループの名は、その頃に咲く花にちなんだ「あじさい会」。ご逝去後にメンバーが集まられ、山村さんの詩文集を読み返されたそうです。代表して大西智子さんに追悼のお言葉をいただきました。

2018年
*
句集『浜木綿』を
自費出版
今まで綴りお
かれた中から、友
人知人に葉書を書かれるときに一
句二句添えて、私への葉書にもいつ
も一句いたいただきました。お花を
詠まれた句がたくさんあります。
2020年『山村瑞子詩文集』
「子や孫にある日の記念に」……と。
ご家族やお友達のこと、いっぱい心
を込めての詩集・童謡・エッセイで
す。その中から、「一生」をご紹介します。



あじさい会の皆さん(2015年)

おたよりネット

エスコープ大阪の機関紙「こ～ぷる」の編集に携わっていました

堺東の吉田さん

孫娘を預かりに娘の家に。懐かしい泉北生協(エスコープ大阪)の新聞(機関紙)。娘(双子)が小学生の頃、新聞「こ～ぷる」の編集に携わった。カメラをもって和束(京都府)の中井さんの茶畑にも取材へ。1歳9ヵ月の娘に「安全で安心な食材を」と、こだわりの娘。今も脈々と受け継いでいる生協に感謝!!

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。
配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

223号1面「誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を
読んで

紙面モニターNさん

私も何度がエコロ制度へのおさそいをいただきましたが、仕事や子育ての忙しさから遠慮させていただきました。また自分の性格もあると思うのですが「ちょっと助けて」が言いにくい。難しいところです。最近人は人を頼ることを目的としてエコロ制度を利用するより、誰かを助けてあげる気持ちを目的にエコロ制度に参加してみるのも良いかなと思い始めました。小さい子どもの親になって分かったワンオペになりがちなお母さんの理解者に慣れたら良いなと思います。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

●お名前

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。
この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
225号(2021.10.25)

キリトリ